

令和7年4月24日木曜日

13:00～14:00

醍醐事務所にて

定期巡回のクローバー

令和7年度一回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

介護・医療連携推進会議録

出席者：内海（醍醐学区民生委員会会長：欠席）、高田（民生委員）、三好（老人福祉委員）、斎藤（伏見区地域支え合いコーディネーター）、松井（地域・レインボーカフェ運営参加者）、山田（㈱四季代表取締役：欠席）、白川（醍醐北部包括センター）、星野（醍醐北部包括センター）、岩原（クローバー24居宅介護支援事業所所長）、星野（クローバー代表）、立脇（クローバー管理者）、嶋田（クローバー事務長）（書記）

（1）クローバー挨拶、構成員紹介（別紙：構成員名簿あり）

代表星野より挨拶

2023年度は介護職員が212万6千人従事。前年度と比べ2万8千人減少。2000年度の介護保険が始まって以来初の減少。

生産年齢人口が減少し、高齢者が増えている一方で、その支援に携わる人が減っている。地域にある社会福祉協議会のメンバーも、高齢化により抜けていっておられるようで、クローバーにも参加のお話が来ている。

事業所ごとの働いている人数が減り、事業所の合併も散見されている。

ご利用者にも影響が出ており、馴染みの近くにある事業所がなくなった為、クローバーにも夜間訪問型で引き継ぎのような事例も何度もあった。

定期巡回サービスも数が少ないサービスで、さらに地域提供がメインとなると非常に稀有（けう）な存在である。

なんとか、この醍醐や山科の地域で試行錯誤しながら、生産性を高めるとともに、働きやすい職場を目指し職員さんを集め、働いている職員さんにもやりがいを持って頂き、介護の仕事は楽しく、やりがいを感じながら、他産業に負けない給与水準を目指して、介護業界をアピールしていきたい。

（2）R6年9月からR7年4月中旬までの事業所の動きについて

○醍醐事業所〔山科サテライト含む〕について

・ご利用者の推移：R6 年 9 月末 ご利用者数 34 名 平均要介護度 3.45

(内入院等 4 名)

R7 月 4 月中旬

50 名（うち入院 5 名

夜間訪問型 9 名）3.18

相談件数：10 月 8 件 11 月 5 件 12 月 7 件 R7 年 1 月 14 件 2 月 9 件 3 月 7 件 計 50 件

「山科・夜間訪問型含む」

例年であれば 12 月 1 月 2 月と依頼や相談が少なくなる時期で有るが今期は相談件数が多く、契約に繋がることも多く利用者数が増加した。

定期巡回に依頼が増えているのはサービスが浸透してきているのか？滞在型の訪問会議事業所が減少していたり、ヘルパーが不足し依頼先が見つからないためか？地域の状況は分からないが・・・

・白川氏、岩原氏ご意見や情報有りますか？

白川氏：醍醐の高齢者人口は昨年位から一旦減少化には転じている。人口は減っていても独居の方は多いのでニーズはまだ高い。ヘルパーと共にケアマネも年齢層は高くなっている。昨年はケアマネの合格率も高かったが、なかなか明るい話が少ないように感じる。

岩原氏：朝晩のヘルパーの確保は困難だが、日中の支援についてはそこまで獲得困難なように思わない。定期巡回の認知度が高まっている事もあるだろうし、複合的な課題を持っておられる方も多いことも因子なように思う。

斎藤氏：各事業所等々の地域での取り組みを地域の様々な課題を抽出して繋ぎ合わせていくような役割を担っている。この場で、地域の様々な情報を教えて欲しいと思っている。

R6 年 7 月に定期巡回サービスにおいて夜間訪問型サービスを実施できるようになったが、依頼は殆ど無い状態であった。しかし、棒事業所が提供されていた夜間対応型サービスが西九条の事業所に移転されることとなり醍醐・山科地域への提供が出来なくなったとのことで弊社への依頼があり現在 9 件の夜間訪問型の対応をしている。

三好氏：具体的にどのような支援をされているのか？➡転倒などの緊急時の対応。

白川氏：夜間対応をご提案した時に南区の方から来るなら時間かかるし、と利用に繋がらなかった事がよくあったが、同地区での事業所だと安心感が高まるのでは？➡夜間訪問型用の人員配置をしているわけではないので、支援に入っている最中であつたりすると 30 分超の時間を頂戴する可能性があり、時間についてはあまりお勧めしているわけではない。

(3) 周知活動について (別紙有り)

●毎月醍醐と山科を各1日ずつ居宅や病院の地域連携室、包括、訪看などを訪問し周知活動を行った。

毎月の空き状況や今気をつけて頂きたいこと、例えば脱水など。定巡の有効な利用方法などチラシを持参し訪問した。

●醍醐小学区社会福祉協議会に参加

4月19日会合に参加。会長が弊社のことを知ってくださり声を掛けていただく。

5月23日の「ふれあいプラットフォーム」にも参加予定。

斎藤氏：醍醐学園、同和園、北条園等々様々な事業所に声を掛けて今後も参加者を増やしていければと思っている。醍醐学区はすごく色々な方を繋ぎ、色々な取り組みをされている地域。裂き織を始め色々なアイデアがこれからも生まれていくのではないかと期待している。会長もアイデアマンでイベントもお好きな方で相乗効果が期待できるのではないかとと思っている。

●TUMUGI プロジェクト・・・地域密着型サービスとして地域に根ざした事業所となるべく、地域の方と少しずつ関係を持つため、そして「頼れる介護サービス事業所がここにありますよ」と知って頂く為、毎月第3金曜日13時～に醍醐事務所の和室を開放し「裂き織り会」を開催している。弊社のご利用者に対しても裂き織りをしてもらっている。

笑顔いっぱいの会の皆様の協力を得て少しずつ参加して下さってる方が広がって行きつつ有る。先日松井氏が裂き布でマットを作成して下さり、裂いて下さった方にお渡しすることができ、大変喜んで頂く事が出来た。その方が是非松井氏に会いたいと話され裂き織り会に介護者付き添いで来たいと話されているとのこと。近隣の方ではないが縁が広がっていることを感じています。

・参加して下さっている松井氏、高田氏ご意見を・・・

松井氏：多世代交流として笑顔いっぱいの会、高齢者の集いの場としてレインボーカフェをしている。みんなでわちゃわちゃ集まっている時に色々なニーズが出てきたら、それを各所に繋げていけないかなと思っている。TUMUGIもそういう趣旨だと思うし、作品作りも好きなので参加させてもらっている。笑顔いっぱいの会では古民家を借りてやっていたが5/17からは北部包括の会議室も借りれるようになって、直接包括さんに課題を繋げられるのではないかなとも思っている。場所が変わるのでどれだけ来てくれるか不安はあるが。レインボーカフェでも高齢者の集いの場としてトトハウスで実施している。以前は子供も参加してくれる活動が出来ていたが、当時の子どもたちが大きくなってその後が繋がれず高齢者の活動のみになっているが、みんなとても楽しみにして来てくれている。色々な話を聞いていると包括さんとの関わりの敷居も少しずつ低くなっているのかな、と感じている。地域の下からの活動として少しでも力になればいいと思っている。「聞ける人がいる」というのはとても大きい安心だと思っている。

る。

高田氏：地域の活動に参加させてもらうようになって、自分自身が楽しいと感じている。お話しだけではちょっとと思うが、手を動かしたり何かしたりする中でこそ色んなお話しが生まれてくると思う。

事務所の和室が少しずつ手狭になってきている感はある、将来的にはどこか部屋を借りないといけないかもと感じている。➡包括の会議室も開いている時はどんどん開放していこうと思っているのでいつでも相談してください（白川氏）

●池田東学区「すこやか学級」参加

昨年に引き続き参加を継続することとなった。

斎藤氏：他の学校のすこやか学級には参加されるおつもりはあるか？社協に色んな企画を考えて欲しいという依頼が来たりする。継続的な参加は負担が大きいと思うが、年に一回などピンポイントでの参加などもし良かったら調整しますので仰って頂きたい。

➡6月以降であればご相談には応じられるかもしれないので、仰って頂ければ調整します。

○少しずつではあるが地域に根ざすことを目指して地域の方と関わりを持っている。昨年は醍醐石田団地の生活支援アドバイザーの大西氏に挨拶し、今後はこの連携会議への参加もお願いすることとなっている。

地域活動において求められていることはどういったことか？どうすれば地域で、ご自宅で困っておられたり、孤独でおられたり、関わりを持ちたいが持てない方達を見つけ出すことが出来るのか？

・皆様に意見をお願いします。

白川氏：包括支援センターで課題の窓口にあたる事が多いので、直接依頼する事はあまりないが、地域の方々にとってこんな支援があるという事を知ってもらう事は選択肢となり、安心感になるのではないかとと思っている。独居の方が多く、関わり始めた時には認知症など随分進んでしまっている事も多い。自ら外に出て来てくれる方は良いが、そうでない方をどうやって外と関わってもらうかに頭を悩ましている。

三好氏：高齢になると頑固になられる方も多く、色んな誘い方をするが「自分で出来る」「また自分で行くから」と返事されるとそれ以上何も言えず難しさを感じる。

白川氏：心配にも色んな種類がある。「分からない」から心配という事も多い。お話を伺う中で、実はご家族が週に一回顔を出して下さっている事を知れたり、それを可能な範囲で近隣の方にもお伝えする事で安心される事も多い。包括が解決するというより、色んなところに繋げていくハブ役としての役割を果たしたいので何でも声を掛けてもらったらと思っている。

高田氏：同居家族がいる方は特に関わりが難しい。課題が見えにくい。

岩原氏：2025年問題を随分前からどうにかしないと、と課題感をもって地域で動いていた。今年2025年だが、なんとなかなっているな、という見方も出来るのではないかと考えている。崩壊はしていない。それはそれぞれの立場でそれぞれの方が色々な活動をされているからだからだと思っていて、続けていくことでこの先もなんとかなるんじゃないか？やれることやっているよとポジティブに受け止めていくことも大事ではないか、と思う。

醍醐では、地域特性（近隣に精神病院が多いなど）として障害を持った家族が多いこともあり、そうした家族をどのように支えていくのか？という事は今後も課題としてあるとは思っている。

（４） 自己評価・外部評価について（別紙有り）

皆様外部評価への記入ありがとうございました。集計結果を今回お渡ししていますのでご覧頂ければと思います。

次回 R7 年度第 2 回 介護・医療連携推進会議 ：令和 7 年 10 月に予定し

ております。ご協力をお願いいたします。

以上